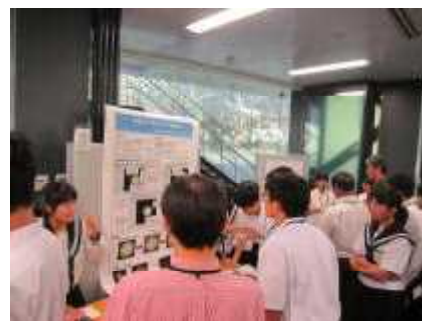


2 課題研究交流会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

課題研究に取り組む高校生が、大学の研究者から直接アドバイスを受けられる機会を作る。このような機会を作ることで、高校生の課題研究の質を向上させ、意欲や論理的に考える力を高める。また、高校生同士が互いの研究を知り、議論することで研究を深める。



ポスター発表の様子

(2) 研究開発の経緯

多くの科学コンテストは、研究成果が評価される場になっており、研究で生じた問題点や疑問について質問ができる場にはなっていない。本交流会は、生徒が自分の研究内容について簡単に説明した上で、研究上の疑問や問題点について相談ができる機会として設定している。会場は昨年度より野依学術記念交流館で実施している。

ア 研究の内容・方法

課題研究についてのポスター発表と相談、理学の研究方法に関する講義

イ 連携先 名古屋大学理学研究科・多元数理科学研究科・環境学研究科

ウ 参加者 県内高等学校 生徒161名、教員31名 総合教育センター1名 大学教員1名
生徒：市邨3名、岡崎23名、向陽27名、豊橋東13名、半田29名、
名城附2名、明和9名、一宮55名
教員：市邨1名、岡崎2名、向陽6名、豊橋東2名、半田5名、名城附1名、
明和3名、一宮11名

エ 日時場所 平成30年 8月 2日(木) 10時00分～15時30分

名古屋大学野依学術記念交流館

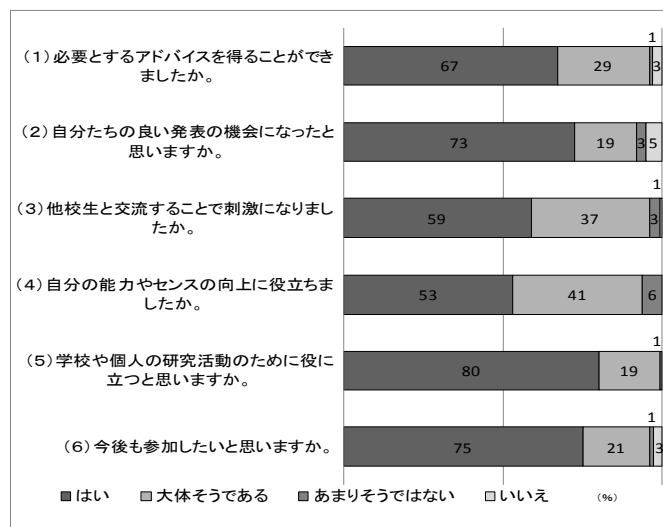
オ 実施内容（注意・工夫した点）

ポスター発表の前に、ホールで1分間のプレ発表を行い、参加者が全ての発表の要旨を確認できるようにした。また、ポスター発表は前半と後半に分け、発表者も多くの発表を見られるようにした。

カ 検証（成果と反省）

生徒アンケートでは、多くの生徒が「必要とするアドバイスを得ることができた」と答えており、事業のねらいである高校生の課題研究の質の向上を図る良い機会となったと考える。また、「他校生と交流することが刺激となった」と答える生徒も同様に多くいたことから、高校生同士が互いにそれぞれの研究成果を理解し、議論することが自分たちの研究に対するモチベーションを高めることにつながったと理解する。

今年度、参加者は昨年度と比べ10名程度の減少（参加校として5校の減少）をした。実施時期が学校の夏休み期間であることを考慮して、多くの学校が参加できる日程を考えていきたい。



参加生徒の感想から

- ・大学の先生や院生からの指導や話を聞ける良いチャンスなのでとても良いと思います。
- ・他校生と交流する良い機会になりました。